

第3学年D組社会科学習指導案

日 時：令和4年7月2日(土)2限

場 所：3年D組教室

授業者：福田 仁

1 単元名 現代の日本と世界

[歴史的分野](2)内容 C(2)

2 単元について

本単元は、学習指導要領の内容 C「近現代の日本と世界」の(2)「現代の日本と世界」に基づき設定したものである。この中項目では、冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設がすすめられたことや高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解することをねらいとしている。第二次世界大戦後の日本は、日本国憲法が制定され、新しい日本とよばれるようになり、現代の日本を築き上げた。また、高度経済成長、冷戦の終結などを経て、日本が国際社会の中で担う役割も大きくなった。現代の世界では、紛争や環境問題など多岐にわたった課題が山積みとなっている。これからの課題を解決し、誰一人取り残されない、持続可能な社会の実現が求められている。これまでの歴史的分野の学習を踏まえて、現代の課題について取り上げ、考察、構想し、生徒が、社会的事象の歴史的な「見方・考え方」を働かせて、自らの考えや意見を提案したり、議論したりする学習の過程を通して、歴史の大きな流れの中で現代の課題を考え続ける姿勢をもつことの大切さに気付くことができるように促し、公民的分野の学習へ向けた課題意識を育成することができる教材であると考え。

本学級の生徒は、4月に行った社会科の授業に関するアンケートで、97%の生徒が「社会科は暗記科目だと思う」と回答した。このアンケート結果や昨年度の学習に取り組む姿などから、学ぶ力を「思考力・判断力・表現力」、「自己調整力」とし、思考力・判断力・表現力を高めることに重点を置いた授業を行っている。「第一次世界大戦」の授業では、大戦後の各国の状況がプラスかマイナスのどちらになったかと問い、価値判断を行うことに取り組んだり、「第二次世界大戦」の授業では、なぜ日本は太平洋戦争を始めたのかと問い、思考ツールを用い、開戦の理由を分析するのに、政治、経済などの視点に着目させ、多面的・多角的に考えたりすることに取り組んできた。班での話し合い活動に意欲的に取り組む生徒が多い。ただ、自分の考えを持つことはできるが、班員の意見を聞いて、自分の考えを広げたり、深めたりすることを苦手としている。

指導にあたっては、次の2つを意識する。第一は、歴史的分野の最後の単元であり、今までの学習を活かすだけでなく、現在の日本や世界の課題取り上げ、学習課題の設定などをし、公民的分野の学習へつながるようにしたい。第二に、自分の考えを表現する場面を多く設定し、意見交換などを行うことによって、友だちの意見を取り入れて、自分の考えを再構築させるなどして、多面的・多角的な考察を促し、考察を広げたり、深めたりしたい。

3 単元の目標

- ・我が国の民主化と再建の過程，冷戦，国際社会への復帰などを基に，世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことや高度経済成長，国際社会との関わり，冷戦の終結などを基に，我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し，国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。 (知識・技能)
- ・これまでの学習を踏まえ，歴史と私たちのつながり，現在と未来の日本や世界の在り方について，課題意識をもって多面的・多角的に考察，構想し，表現している。 (思考・判断・表現)
- ・現代の日本と世界について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

4 単元計画(全8時間)

- 第1時：占領下の日本と民主化
- 第2時：冷戦の開始と植民地の開放
- 第3時：独立の回復と55年体制
- 第4時：緊張緩和と日本外交
- 第5時：日本の高度経済成長の影響
- 第6時：持続可能な社会に向けて(本時)
- 第7時：冷戦後の国際社会
- 第8時：変化の中の日本

5 本時の目標

現代の日本のエネルギーの変遷やその背景を読み取ることを通して，日本のエネルギー問題への解決策やあり方について，今までの学習を振り返りながら，多角的に考察し，自分の考えを表現することができる。 (思考・判断・表現)

6 準備物

ワークシート テレビ パソコン

7 学習過程

学習活動	○主な発問 ・ 予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ○評価【観点】(方法)※手立て
1. 軍艦島について知る。	○なぜ，無人島になったんだろうか。 ・住みにくくなったから。 ・エネルギー革命により炭鉱が閉山されたから。	・島の名前などを言わずに写真を提示し，生徒とやりとりしながら，島の状況などを確認し，生徒の関心を高められるように工夫する。
2. 日本のエネルギー供給割合の変化の背景を確認する。	○エネルギー供給割合が変化しているのはどんな背景があったんだろうか。 ・エネルギー革命 ・石油危機による石油価格の高騰 ・地球温暖化問題 ・原子力発電所の事故(東日本大震災)	・学習したこととつながりを持たせるために，今までの歴史学習を振り返らせたり，世の中のできごとを思い出させたりしながら考えるように示唆する。

<p>3. 現在の日本のエネルギーの課題を確認する。</p>	<p>○電力が不足している原因にはどんなことが考えられるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電力消費量の増加(猛暑によるエアコン使用、コロナ禍でのテレワーク増加など) ・火力発電所の稼働率の低下(温室効果ガス排出削減のため) ・発電量の低下(原子力発電所の停止、再生可能エネルギーの利用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・政府の節電要請の新聞記事を提示し、現在の日本の状況をつかませ、電力消費側と電力生産側の視点から考えさせる。
<p>4. 今後のエネルギーの在り方について考える。</p>	<p>○持続可能なエネルギー利用のために、どの政党の公約を支持するか。</p> <p>A党支持(自民党)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子力は二酸化炭素を排出しないので、環境に優しいから、地球温暖化防止のためにも有効だから。 <p>B党支持(立憲民主党)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境のことを考えると二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギーがよいし、原子力発電は事故があったらとりかえしがつかなくなるから。 <p>C党支持(日本維新の会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子力発電は、効率的に有効な発電方法だけど、事故が起きたときに、甚大な被害をもたらすので、原発周辺住民の合意で決めるのよいと思うから。 <p>D党支持(日本共産党)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子力発電と石炭火力の発電量をゼロにするのは安全面、環境面でとても大事だから。 <p>E党支持(NHK党)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つの発電方法だけに頼ると何かあった時に困るので、どれかがダメになっても補えるようにしておくことが大事だと思ったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、各政党のエネルギー・環境に関する公約から1つ選ばせる。 ・政党のイメージなどで選ばせないようにするために、政党名はふせて提示する。 ・公約の中に出ている内容について、なぜそれを支持するのかということを確認にして、理由を記入するようにさせる。 ・選んだ政党とその理由を全体で共有し、最終的にどのようなあり方がよいか、各政党の政策を参考にしながら、自分の言葉でまとめさせる。その際に、なぜその発電方法・エネルギーの利用がよいのかという理由も記述させる。 <p>○現代の日本のエネルギー利用の特色を基に、持続可能なエネルギー利用のために、どのようなことが必要か、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】(ワークシート)※友だちの意見などを参考にするように助言する。</p>
<p>5. 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○これからの日本にはどのようなことが求められているのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに学習の見直し対する振り返りを記入させる。